

(様式第7号)

### 地域の課題解決のための活動報告

記入日： 2017年 06月 19日

作成者： 辻本 久夫

団体名	こくさいひろば芦屋	
事業名	キャリアアップ事業	日時等：4月～3月(12か月) 浜風小学校ほか
内容(実績) *実施したことを具体的に		受益者数
<ul style="list-style-type: none"><li>● 英検2級以上の英語力をもった高校生3人を特別奨学生としてHSBC高校生グローバルキャンプに推薦し参加させた。被災地で地元産業復興課題を英語で話し合った(岩手/宮城、規模40人)。</li><li>● 自分を語り、自尊心を高めるために、「ちがうことこそすばらしい子ども作文コンクール」(6府県規模の外国にルーツを持つ子ども対象、応募総数451点)と、「ひょうご新聞感想文コンクール」(応募総数1万数点)に計25人が応募し、計3人が入賞した。</li><li>● 日本語を母語としないおとなや子どもに日本語レベルアップを図るための検定、また教科学習での自信を高めるために英検などの資格検定受検を勧めた(日本語検定13人、英検15人、Toieic 1人受検)。</li><li>● 「レインボー芦屋基金」(市民の寄付金で運営)から資格・検定等の合格者に受験料相当額を「ステップアップ応援金」として贈呈し、努力を讃えた(贈呈金総額約11万円)。</li><li>● 「日本語・母語スピーチ大会 in 芦屋」におとなと子どもが出場し、自分の悩み、夢などを発表した。(応募40人、2010年度より毎年実施)。</li></ul>		(117)人
		(約250)人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に		
<ul style="list-style-type: none"><li>● 日本語を母語としないおとなや子どもが、日本での新しい生活のため第1また、第2外国語として日本語を日曜日や夜に学ぶ努力は、支援者に感動と喜びを与えている。</li><li>● 日本語学習・教科学習支援に関わる高校生や大学生、市民は、支援を通じて外国にルーツをもつ人とのスキンシップができ、地域の共生社会づくりの必要性を理解した。</li><li>● 外国にルーツを持つ子どもやおとなの作文朗読やスピーチ発表は、地元の学校長等の審査員や聴衆に大きな感動を与え、教育・行政関係者に共生社会造りの課題を提起した。</li><li>● 「レインボー芦屋基金」制度は、他市の市民団体や自治体に普及し、新たな支援制度の必要を考える契機となっている。</li></ul>		
今後の展望(どのように継続、発展するか)		
<ul style="list-style-type: none"><li>● 外国にルーツをもつ人への日本語学習や教科学習支援は、「出会いの場」であり、「同じ悩みなどを持つ人たちの居場所」にもなっている。支援活動は地域の共生社会造りに広がる。今後も学習参加やボランティア参加を呼びかけていきたい。</li><li>● 作文やスピーチ発表は、学習者の「自分発表」であり、また支援者の「自分探し」を示唆する。キャリアアップへの契機になる。キャリアアップは自分への自信を高め、夢を持ち実現する努力を導き出す。また、キャリアアップは社会的マイノリティの人たちの種々の地域活動参加や社会参加を導き出し、共生社会づくりの一翼となる。</li></ul>		